

ハイパーテキスト概念によるソフトウェア 設計支援環境「電腦机」の開発

秀田敏勝・株式会社パックカード・所製鋼ツレト所・正孝樹司

- 程開とて一す
工範心しデ築
流の中と構
上理をム索を
の管系テ検ス
発書報スド一
開文情シ一ベ
あるジクワタ
エな一一一
ウ单メワキデ
ト。イト、報
フたにツリ情
ソしうネよの
て発よンに發
し開るコと開
とをきソニア
主境でバるエ
環力ないウ
1)、る入価用ト
すを安をフ
て援報を念ソ
い支情ム概も
用を全テのて
を程うストく
念工极シスな
概計の理キく
の設ア処テ全
ト、ニア一が
ス集ジイパ等
キ収ンディ識
テ報工メハ知
ニ一情、チ。
めバ、てルたス
じイるえマシ一
はハあ超た現ベ
でをし実タ

し入と期心初中のをタ理一アト幅さ援エス、発支計念いた境設概広れ環上よ開、問のに範がの處デウキず開アトテセでエフー存kウソバ依tトるイmallf小法Sはいハ法mソてな手はれ的計語でわ用設言稿な汎、向本よ。こつ系指、おか語トし。Aのス力タヤ設でどれウオベい入一。」り、エとべ一デる筆おアジこ述ナ計き鉛てエブるてス境と「発一ムでにシたの決はお特本でムた環こ在開ハテ稿いキ、が紙さドは述つ。支す、い定シはのが、題ス重たきにシとで問シにるで現本で従もテ点めるつスこのの本程い用実とるた力工て利の点き来解ムを。」テ

- はれ程のエム
をら工どウラ
トめ流なトカ
ク進下書フ点
エてど義ソナ
ジしな定はう
'ロ指力求でよ
'ブ目ッ要トの
 Σ をバニク次
、上デラエ、
り向、さジめ
お性ラ、ロ始
て産イ国プラ
れ生パ一本か
わのンロ。と
言業コフイこ
と産、タ多る
るアは一がす
いエでデの析
てウト、も分。
れトクPのてた
遅フエCチベえ
がソジH一す考
点化のロ、ロをに
題業こブてブ報心
問工がのしア情中
のの発くトう力を
トトく。ル程ジ流
フフ多る一工ン上
ソソめいツ流工ろ
じじての上アし

1) エンジニアに対する入力は殆どがイメージ情報系である
実際のエンジニアに入つてくる情報は、文献、雑誌、社内報等が書かれており、電子メールやfax等の書類も受け取る。また、手書きの図面や手書きのメモ等が提出される場合もある。

図 1 ハイパーテキストによる情報管理

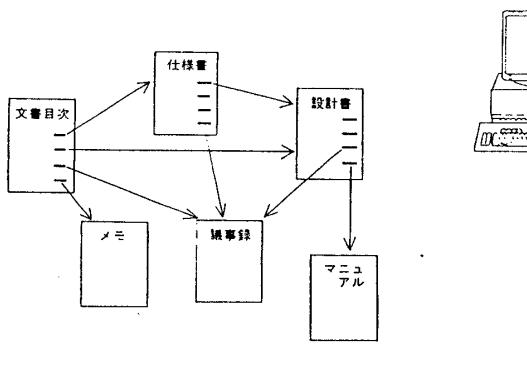
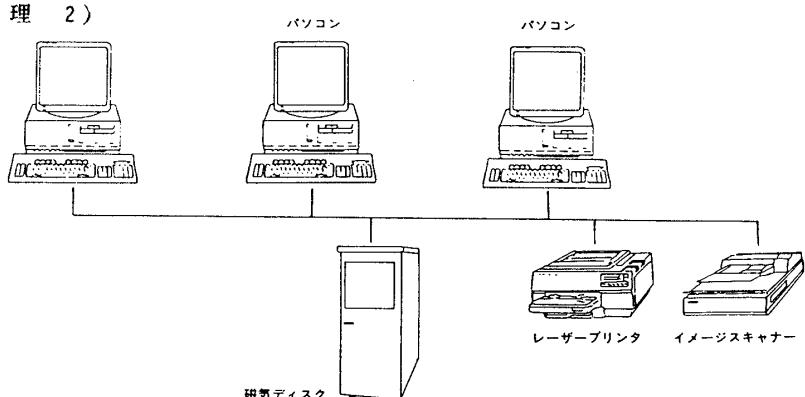


図 2 システム構成図 2)



3) 情報共有による重複開発の防止

ソフトウェアの生産性を向上させることによって、開発時間を短縮する。しかし、複数の開発者間で情報共有を行うことは、設計/プログラムの共有を行なうことで、開発工程の流れを乱す原因となる。したがって、個別生産性の向上を図るには、ソリューションエンジニアとしての意識をもつて、全体会員との連携を図ることが重要である。

3. ハイパーテキストシステムによる情報共有

本システムは、各開発者が各自の専門知識をもとに、複数の開発者と情報を共有するためのツールである。各開発者は、自分の専門分野に関する情報を、他の開発者と共有することができる。また、各開発者は、他の開発者の専門知識をもとに、自分の専門知識を向上させるための情報を得ることができる。このようにして、各開発者は、自分の専門知識をもとに、他の開発者と情報を共有することができる。

4. おわりに

本システムの目的は、多様な情報を共有するためである。そのため、各開発者は、自分の専門知識をもとに、他の開発者と情報を共有することができる。また、各開発者は、他の開発者の専門知識をもとに、自分の専門知識を向上させるための情報を得ることができる。このようにして、各開発者は、自分の専門知識をもとに、他の開発者と情報を共有することができる。

参考文献

- J. Conklin : Hypertext: An Introduction and Survey, IEEE Computer, Sept., pp17~41(1987)
- 本田、高橋 : 日本語ハイパーテキストシステム
日経ハイテク情報 '88.5.16 Vol 88
pp 21~23

図3 電脳机画面例

